



環境に調和する自動化機械

Keywords 農作業ロボット, 環境保全, 環境修復, 自然エネルギー利用

01 本研究の適用分野・用途

- 農業機械
- 造園機械
- 林業機械
- 漁業機械
- 環境保全機械

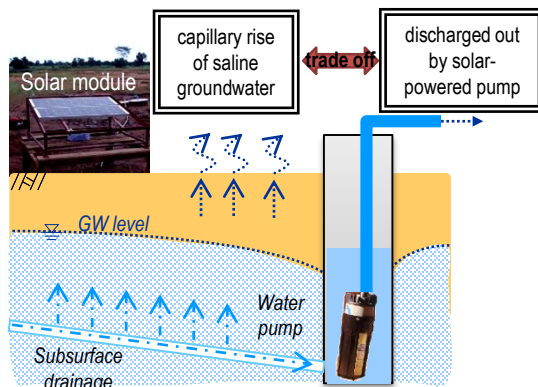
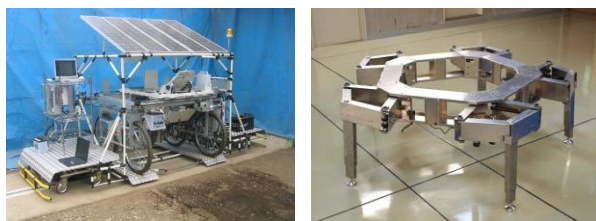
02 アピールポイント

- 「機械だからこそできる」ことを機械に実行させることで、真の意味での人間機械協調が可能になる
- さまざまな屋外でのシステム開発が可能

研究概要

研究開発例1：農作業ロボット

- ・ 人間が実践するには作業負荷の高い環境保全型農業は、長時間疲れず、嘘もつかず働けるロボットだからこそ実践できると考え、ロボット開発を行っている。
- ・ 農作業ロボットの場合、例えば、苗を植える速度を速くしても、速く育つわけではない。従って、遅く動いて良い、という前提条件が生まれ、これまでにない特徴をもったロボットが可能になり、自然エネルギー利用、脚式移動機構の研究を行っている。



研究開発例2：塩害修復システム

- ・ 野外で活躍するシステムは、安全性、信頼性、自律性を考慮すると、「樹」を模倣すべきと考え、太陽電池駆動の地下水排水システムを構築し、タイ東北部での塩害修復に適用している。

